

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0470500323		
法人名	社会福祉法人豊水会		
事業所名	みずなしの丘		
所在地 (電話番号)	気仙沼市赤岩水梨子97-55		(電話)(0226)24-7290
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 20 年 7 月 24 日		

## 【情報提供票より】(平成20年 7月 8日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤11人、非常勤12人、常勤概算13.9人	

## (2)建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建ての	階 ~ 1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	5 名	要介護4	5 名			
要介護5	2 名	要支援2	名			
年齢	平均	83 歳	最低	74 歳	最高	93 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	気仙沼市立病院
---------	---------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海に見える里山の自然に囲まれたホームであり、農家出身の入居者が多い。地域の農家のボランティアの協力で、畑を作り農作物を育て除草し収穫の喜びを味わっている。保育園や小学校との交流、地域のイベントなど、地域の一員として積極的に参加している。認知症についての講師派遣やホームの収穫祭、畑の収穫物の贈呈など地域に還元している。自動火災通報装置を備え、地域住民9人宅に自動通知されるという協力体制もとられている。設立して5年、年々入居者が高齢化、重度化しているので終末ケアを検討するも、地域に往診医がいないことや訪問看護サービスが不足している等、ホームだけでは解決できない課題もある。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前々回の課題である浄化槽が改修され、現在毎日、入居者が希望すれば夜間も入浴可能となっている。前回の課題①地域密着型の理念の変更 ②預かり金明細書の写し毎月送付
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の勉強会を開き、自己評価は全員で分担して取り組み、各ユニット長がまとめ、管理者が完成させた。ホームのサービスを振り返ることができ、日々のサービスの質の向上に貢献している。前回の外部評価の結果は職員会議や回覧で全職員が共有し、気づきや改善項目は検討し可能なものは即対応し解決している。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進委員には入居者・家族・民生委員・包括支援センター・理事長・管理者・ユニット主任・地域推進協議会会長の8名で構成され、原則2ヶ月に1回開催するも、推進委員の日程調整が難しく3ヶ月に1回となった場合もある。議題にはホームからの報告や外部評価の勉強、防火対策などが話し合われた。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 前回課題の金銭報告は残高、支払い明細等が記載されている小遣い帳の写しを毎月家族に健康状態や生活状況の報告書と一緒に送付している。年に数回ホーム便り「みずなしの丘通信」を発行している。家族から「職員の名前と顔が分かるようにしてほしい」という要望があり、写真と名前を玄関の入り口に掲示することやホームの通信に掲載し、周知するようにしていただきたい。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 保育所や小学校等の交流、地域のお田植え祭や、ホームの収穫祭、歌や踊り、畑等のボランティアの受け入れ等、避難訓練や自動火災通報装置で地域住民9名に自動的に連絡され協力してくれるなど地域との関わりが非常に深い。ホームでは畑で取れた野菜等の贈呈や認知症等の講師派遣、介護相談等で地域に還元して支え合う関係作りをしている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	前回の課題である地域密着型サービスを加味したグループホーム独自の理念「自然とのふれあいや地域との関わりを大切にしながら、地域と共に歩んでいただきます。」を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の勉強会をし、ひだまりユニットでは職員に理解浸透をはかり、日々の介護の心構えに役立てる。せせらぎユニットでは理念を交えながら介護の仕方を話し、日々唱和し、入居者の尊厳について認識し対応している。「みずなしの丘通信」等にも掲載され家族や関係者等への理解浸透をはかっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園や小学校との交流、地域のお田植え祭など積極的に参加し地域の連携をはかっている。ホームの畑には地域のボランティアが除草や苗の植え方などを行っている。ホームとして認知症についての講師や介護相談等の要望に対応し、地域に還元している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の勉強会を行い、自己評価は職員全員で分担し、各ユニット主任がまとめ、管理者が仕上げた。外部評価の結果は職員会議で報告し、回覧して職員に周知徹底させ、改善項目はすぐ検討し対応した。家族や市町村へ報告し開示している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の勉強会を行い、評価結果は報告し、避難訓練等について貴重な意見を頂いている。推進員の日程調整が難しく原則2ヶ月に1回開催していたが、3ヶ月になってしまったこともあったので、種々困難はあろうが原則を貫いて開催するように努めてほしい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員が運営推進委員となり気軽に相談できる関係づくりをして、医療加算等の助言を得ながらホームの運営に活かせるよう連携の強化に努めている。県のケアマネージャーの講習会や市や町の認知症サポーター等の講師等も受託している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの様子や健康状態は面会時や郵送で報告している。前回課題の預かり金については、お小遣い連絡票を送付し残金等を連絡している。職員の異動もそのつど行っている。ホーム便り「みずなしの丘通信」は年数回発行している。職員の名前と顔が一致せず、話を深めることができない家族もいる。	○	職員の顔の写真と名前を表示し、玄関入り口に掲示したり、ホーム便り「みずなしの丘通信」に掲載したりして、入居者はじめ家族等にも分かるようにしていただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や報告書送付時家族の意見や要望を聞き、職員と協議し即実行できるものは実施している。来訪時なんでも話し合える雰囲気づくりに努めている。公的苦情相談機関や第三者委員等も重要事項説明書等に明記し、ホーム便りにも掲載している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族アンケートの中には、「創設当時の馴染みの職員が介護の中心で、定着率がよく家族等との信頼関係ができ、安心して暮らせる」と、家族アンケートにある。異動の場合はダメージを最小限にするよう、新任者には2～3週間、前任者が引き継ぎながら共に介護にあたっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修には常勤・非常勤の別なく参加できるよう、職務に応じた研修を計画的に段階に応じて実行している。報告書やカンファレンスで全職員が共有し介護に活かしている。経験や勤務年数により、資格取得に向けた働きかけをし、人材の育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の連絡協議会の会議や研修に参加している。ノロウイルスや口腔ケア等情報交換等を行い、気づきをホームの介護に活かし質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に職員が訪問したり、安心して入居してもらうために、入居者や家族等にホームを見学してもらい、納得の上入居してもらっている。家族等の要望で、入居日には面接した職員が対応し、一週間位でホームになじみ生活している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者から生活の中で野菜の切り方や道具の使い方、山菜料理やあずきハット等行事食の作り方、生活習慣等を教えてもらい、一方的な支援にならないように支え合う関係づくりをしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が困難な入居者には、言葉や身振り手振り等を交え気持ちや思いを聞いたり家族に聞いたりして意向を確認している。日常の会話や支援を通して、方言や年代にあわせた話題等で、本人の立場になって考えコミュニケーションをとるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用し、アセスメントを基にカンファレンス時の意見交換等で介護計画を作成し、担当職員の意見やアイデアを反映するようにしている。本人や家族の要望は、職員全員で話し合い介護計画の作成に活かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度は本人や家族の意向を面会時や電話等で聞きだし、介護計画の見直しに活用している。3ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、変化があった場合には随時見直しをしている。「せせらぎ」では計画担当者の交代があり、順次見直しを進めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族等の要望に応じて、臨機応変に通院介助や薬とり、送迎や外出支援を行っている。地域のニーズがあればデイサービスやショートステイ等多機能性を考慮するも、現段階では時期早尚であるとしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診や通院は家族が対応することになっているが、状況に応じて職員が代行や同行をしている。受診時にはホームでの書面を持参し認知状態やADL(日常生活動作)等の情報を提供をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの終末ケアについては、年々高齢化、重度化が進み、地域に往診医がなく訪問看護も少ないので対応には課題が残る。そのことを入居時に方針を説明し、本人や家族等からは同意を得て、段階的にもその都度説明している。歩行の度合いでユニット分けをして対応、全職員がホームの方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の認知の状態や生活歴等を考慮して介護にあたっている。「おばちゃん」や「かあちゃん」など日頃家庭等で用いられた名前呼び方や方言等言葉使いに気をつけ、入居者が分かりやすいように話し掛けをしている。入居者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個性や生活歴を考慮し、暮らしぶりや生活リズムを大事にしてドライブや買物、刺し子や畑仕事等その人らしく過せるようにし、ゆったりとして入居者のペースで笑いと楽しみのある生活を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるよう家庭で使用した茶碗や箸等を使用し、ホームの畑で野菜を育てて、収穫して調理する喜びや仲間と一緒に食する喜び、片付け等協働の喜びを味わうよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浄化槽が改修され、毎日毎夜入浴が可能である。回数や時間帯など入居者の体調を見ながら支援している。仲間と一緒に入浴している人もいる。入浴を拒む人には湯の花の香りがする入浴剤を入れ、温泉だから温まろうと誘って入浴支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	刺し子やパッチワークなど入居者の作品が展示され、生きがいがいになっている。野菜の採取や食事の調理、後片付け等は楽しみながらの生活リハビリとなっている。精神的にも安定し、やりがいや生きがいになると本人はもちろん家族等からも喜ばれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	閉じこもらせない介護に努めている。重度の多いユニット「ひだまり」では、歩ける人は散歩やドライブに、「せせらぎ」では地域の行事や外食、お墓参りや故郷への帰宅等も支援している。入居者の要望の多い温泉旅行ができるよう職員は思案している。	○	加齢により重度化は避けられないが、安全を心がけ、外出支援に努められたい。重度の入居者も参加することであり、良い思い出になるよう家族や運営推進委員、地域のボランティア等の協力を得て、安全を心がけ温泉旅行を実現していただきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	前回の課題ホームの裏側施錠については、生活歴や行動パターンから読み取り、事前の声かけをして安全な介護に努めている。防犯上夜間には施錠している。朝の職員の手薄な時の外出にも、生活歴や行動パターン等を配慮し見守りをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防や地域の協力を得て、総合避難訓練をしている。1回は夜間想定で、年数回はミニ避難訓練を行っている。自動火災通報装置を備え、地域の9名宅に自動的に連絡され、協力を得る体制となっている。米等を備蓄している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のバランスの良い、旬の食材を取り入れた献立の食事をしている。入居者の希望でとろみやパン食、行事食等も支援している。食事量や水分摂取量は常にチェックし補給している。「せせらぎ」ユニットではほとんど食べ残しがない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂等に刺し子やパッチワーク等が壁面等に展示され、趣味のある家庭生活を醸し出している。すだれなどを用い西日の調節をして季節感も醸し出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で使い慣れた馴染みの家具や夜具等を持ち込み、趣味の手造りの作品等を飾り、居心地よい本人の要望を取り入れた居室作りをしている。温度や湿度等は入居者の希望で各室調整している。		